

マネージメント情報

※上士幌町福澤農場

OPU-IVFの委託培養を引き受けるようになってから今までご縁が無かった、たくさんの農場の方と知り合いになることができるようになりました。

今回はその中のお一人、上士幌町の(有)福澤農場の福澤嘉諭^{よしつぐ}さんを紹介します。今年2月第2週号の農業共済新聞にも紹介されていますが現在肉用牛約400頭(受託牛舎)と畑作(バレイショ、テンサイ、小麦、豆類など)52haの複合経営です。以前全農ETセンターで3年間受精卵移植技術の研修を受け、農場に戻り積極的に受精卵移植を取り入れ宮崎県から和牛を2頭導入しこの牛から採卵した受精卵を移植して、子牛を生産販売するようになり現在に至ります。上士幌町では畑作や大規模酪農家が多い中、和牛をやっている農家は少ないようですが、4代目の福澤さんは無類の牛好きで突然ご自分が牛の背中に乗っている動画を送ってくれました。



【農業共済新聞より抜粋全員集合】



この様に平気で乗れる、心が通じ合っている牛がいるそうです。

怖いと思う人からのエサの給与や繁殖より
安心感のある人からのエサや繁殖の方が
良いですね
ただの牛好きです

日本中の牛飼いさんと「牛」っていう共通の話題で仲良くなれます
ホルも和牛も牛飼いも獣医師も消費者もみんな笑顔になる
畜産いいですね☆
自分は買って頂いた先で良くやったって褒めて貰える牛づくりを
目標にしています!□

とコメントを頂きました

私が獣医師になった 41 年前は殆どの酪農家がつなぎ飼いで、牛も 1 頭 1 頭名前前で呼ばれていてスタンションの上には牛名板があり名前が書かれていました。

BSE の発生があった時に今は当たり前に使われている 10 桁の個体識別番号ができ、その後から酪農経営も規模が拡大していき牛は名前から番号で呼ばれるようになりました。

今回の福澤さんとのやり取りで何か忘れていたものを思い出させていただきました。

肉牛経営、酪農経営の違いや各々の経営規模の大小はありますが、楽しんで、笑顔で仕事をするということは考え方や毎日の工夫でできそうな気がしますがいかがでしょうか!?

先月福澤さんで佐藤 vet サービスの佐藤先生が OPU をした 3 頭の和牛の委託培養を受けました。A ランクの体外受精卵がそれぞれ、11 個/30 卵子、26 個/67 卵子、16 個/31 卵子、胚盤胞ができました。受託培養は結果が安定しなかったのですが、少しずつ結果がでるようになってきました。

現在 3 ヶ所の開業獣医師の方からの培養を受けています。今月末にはもう 1 ヶ所から見学の依頼を予定しています。

少しずつですが、北海道内でも OPU-IVF の技術の普及が広がってきてつつあります。これからの酪農経営は乳価が下がることが予想されています。せつかくの技術がみなさんの身近にありますので、牛群改良や繁殖管理、少しでも高く販売できる子牛生産につながるように THMS 受精卵課ラボの OPU-IVF の技術や体外受精卵を利用してください。

最後に「牛飼ってやっぱり良いですね！」

.....
※THMS 受精卵課ラボを通じて本当にたくさんの方との繋がりができています。前月の徳島の原田牧場さん今月紹介しました上士幌町の福澤農場さん。まだまだ多くの牧場の方とお知り合いになることができます。

ラボが本格的に稼働して 2 年が経過しました。現在私と培養士の栗津、筒井、事務の矢本の 4 名で仕事をしていますが、仕事のボリュームがそろそろ限界に近付いてきました。うれしい悲鳴とでも言いましょうか、この様な状況になることはある程度は想像していましたが、その変化が考えていた 2 倍 3 倍のスピードで起こっています。

獣医師、培養士も求人を出しているところですが、補充できるまでにはもう少し時間がかかりそうです。

※以前にも紹介しました私たちが作っている福之姫 F1 体外受精卵産子の初生市場の価格が 30 万円を越えて取引されています。家畜改良事業団をとおして JA や開業授精所でも購入できますので、興味のある方はみなさんが利用している授精師さんに声がけしてみてください。

R3.5.10.Y